

日本マチュピチュ協会

Japan Machu Picchu Association

会報 No.8



2018年7月発行

日本マチュピチュ協会事務局

<目次>

【Saludo 会長挨拶】	3
【Nuevos miembros 新メンバー紹介】	3
【Reporte especial 特別寄稿】	4
【Actividades 活動報告】	7
【Noticias del Distrito de MACHUPICCHU マチュピチュ村ニュース】	12
【Información del Museo Peruano Oscar Yokichi Nouchi 野内与吉資料館だより】	15
【Información de las publicaciones de medios メディア掲載情報】	17
【Receta de Comida Peruana ペルー料理レシピ】	19
【Presentación de Festividades del Perú ペルーの行事紹介】	20
【Información お知らせ】	20
【Desde el PERÚ ペルーだより】	23

<会報作成協力者>

(情報・記事・写真提供)

マチュピチュ区役所、ペルー政府観光庁日本事務局、(公財)海外日系人協会、
(株)福島民報社、ペルー料理研究家 野内ジョセフィナ、
(一社)野内与吉資料館

(寄稿) Sugar、北川実沙

■日本マチュピチュ協会スタッフ・ボランティアチーム■

(編集) 吉田梨花子

(翻訳) 北川実沙

(作成補助) 片桐美穂

(記事(一部)・最終校閲者) 野内舞子

(最終確認者) 野内セサル良郎

会報作成にご協力頂いた皆様、ありがとうございました！！

【Saludo 会長挨拶】



会員の皆様、ボランティアの皆様、そして役員の皆様や当協会を支援して下さる全ての皆様へ、私から心より感謝申し上げます。

2018年になり早くも半年が過ぎました。会報内にて報告させて頂いておりますが、おかげ様で様々な場所にて、講演会や野内与吉移動資料館に関する活動をさせて頂いております。そして最近では、ハワイで開催された海外日系人大会でのスピーチなどを通じて大勢の方に日本人移民の歴史や祖父の歴史などを伝えることができました。

今年は HIS 様とのコラボレーションにより実現したペルーツアーも実施することになり、ペルー現地でも祖父の功績を伝える機会が増え、大変嬉しく思います。引き続き様々な活動に取り組んで参ります。

最後に、会員の皆様の温かいご理解・ご支援、役員の方々やボランティアの皆様のお力を頂きながら頑張っていく所存でありますので、今後とも変わらぬご支援をお願いいたし、ご挨拶とさせていただきます。

日本マチュピチュ協会会長

野内 セサル 良郎

【Nuevos miembros 新メンバー紹介】



この度、当協会に新メンバーが加わりました！新たにボランティアメンバーも増えましたが、今回は会長秘書に就任した北川さんをご紹介します。

北川さんは、かねてから当協会でもボランティアとして本協会の活動に協力してくれたメンバーです。笑顔が素敵で明るく、スペイン語が堪能で優秀な彼女を、会長秘書として 2018 年 4 月 1 日に任命する事と致しました。新メンバーを加え、さらなる飛躍を目指して参ります！

北川 実紗

南山大学大学院 国際地域文化研究科 卒業

<北川さんからのメッセージ>

「皆様、初めまして。日本マチュピチュ協会会長秘書に就任しました北川実紗と申します。

当協会を知ったのは、会長と南山大学大学院で知り合ったのがきっかけでした。実は最初に出会ったのはその数年前、学部生の時に会長が大学で行った講演会に参加した時でした。彼の祖父がマチュピチュ村の初代村長であること知り、とても驚き、また感動したことを今でも覚えています。それから数年後、私が留学から帰国すると会長が大学院に入学していて、驚きました。すぐに意気投合し、野内与吉氏、そして当協会の話聞き、学生の間はボランティアスタッフとしてお手伝いさせて頂いていました。そして今回、会長をサポートする秘書という重要な役職を頂くことができ、とても光栄に思っています。

当協会の活動は非常にやりがいのあるものです。その活動をより発展させるために、手厚くサポートをしていきたいと思っております。役員、ならびに会員の皆様、どうぞよろしくお願い致します。」

【Reporte especial 特別寄稿】

今回、北川秘書と当協会の活動を通じて知り合った方、計2名によりペルー旅行時についての寄稿文をお寄せいただきましたので、ここに掲載いたします。

<日本マチュピチュ協会 会長秘書 北川 実紗さんからの特別寄稿>

私は学部でスペイン語を専攻し、スペイン語圏の文化や歴史などを学びましたが、その時にどうしても行ってみたかった国がありました。それは、ペルーです。

2014年2月に卒業旅行で友人と二人でペルーへ行きました。初めて自分たちで計画し、チケットや宿の手配などをしたオリジナルの海外旅行でした。そこで出来るだけ多くの時間を使いたかった場所が、マチュピチュでした。

リマに到着するとそのまますぐにクスコへ飛び、そしてまたすぐにマチュピチュへ向かいました。クスコの標高は約3400mと非常に高く、リマから一気に飛行機で上がると高山病にかかりやすいので、まずは標高約2300mのマチュピチュへ降りるのが良いと聞いていました。

マチュピチュへ行くペルーレイルに乗るため、オリヤンタイタンボという駅まで向かう途中、標高が4000m以上にもなるチンチェーロ市に寄りました。ここでは、織物を作る過程について説明をしてもらったのですが、自然の素材を利用して、まずアルパカの毛を洗い、そして植物で染色していきました。自然のものでアルパカの毛が真っ白になり、色はきれいに染まっていくのです。私たちは人工的で高機能なものに囲まれて生活していますが、自然のものにもここまで力があるのかと、とても驚かされました。

さて、マチュピチュでの滞在についてですが、通常、多くの旅行者はマチュピチュに1泊することが多いところを、私たちはなんと3泊もしました。なぜなら、2月は雨期なので雨が降り、霧がかかって晴れない日もあるので、マチュピチュがメインなのに見れないなんて！と思い、欲張って3泊にしたのです。

初日は天気が悪く、霧がかかっていました。霧が晴れるのを待っていましたが、しばらく経っても変わらないので、遺跡を散策し始めました。すると間もなくして、日差しが痛いほどの晴天に変わったのです！その日は雨どころかしっかり日焼けをしてしまい、帽子を被っていなかった友人の鼻は真っ赤になってしまいました。



【アルパカの毛を洗っているところ】



【霧に包まれたマチュピチュ遺跡】

私はマチュピチュ遺跡の中で特に好きなスポットがあります。それは「石切り場」です。行く前までは石切り場にここまで感動するとは思っていませんでした。

石切り場は、500年以上も前に突如として人が消えたことを物語っていました。どのように切っていたかなど想像のつかないほど大きな切りかけの岩が無造作に置かれているのです。本当にここに人が住んでいたのだ、そして突然居なくなってしまったのだ、と感動すると共に歴史の惨さを感じ胸が痛みました。

2日目は天候が悪ければ潔く諦めようと思っていた、マチュピチュ遺跡の後ろに聳え立つワイナピチュに登りました。手すりはあるものの、少し雨露で滑りやすくなった急な石の階段を永遠と登り続けました。山頂近くまで行くと、そこからマチュピチュ遺跡を見下ろすことができます。

もちろんその景色にも感動しましたが、またしても私は意外な場所に魅了されました。それは山を下る時のことです。上りとは違って手すりもなく幅の狭い石段をしゃがみながら降りていたのですが、もうそこは断崖絶壁。まず、そこから見える景色が、私が大好きなジブリ映画のラピュタそのもので、思わず泣きそうになりました。そしてその階段の横には部屋のような遺跡がありました。こんなところにも遺跡が！と驚きました。ワイナピチュの標高は約2700mです。マチュピチュよりも高い場所にも遺跡があり、一体こんなに高いところにどのように、そして何のために建物を建てたのか…としばらく遺跡の窓から外を眺めながら考えていました。

何百年も前に、現代の人間よりも遥かに高度な技術を持った人間が存在していたこと、そして彼らがこのような高所で生活していたことなど、自分の目に移りこむ風景から当時の人の営みを想像すると信じられず、そして理解できず、人間のすごさというものを実感した瞬間でした。



【石切り場】

【「ラピュタだ～」と言っているところ】

6月初旬、協会が行ったBBQイベントの場で、在名古屋ペルー総領事は「マチュピチュを訪れると、きっと皆さんの人生が変わるでしょう。」と仰いました。私は「本当にその通りだ。」と思いました。4年前に見たあの景色とそこで自分が感じたことは、つい昨日のことに覚えていますし、その旅行以降、自然のエネルギーやその壮大さや昔の人間の偉大さなどについてより考えるようになりました。マチュピチュ3日目は遺跡とワイナピチュを眺めながら日向ぼっこをしていました。あの時の自然からエネルギーを貰っている感覚を今でも忘れることが出来ず、またマチュピチュへ戻ってエネルギーを分け与えてもらいたい、そう頻繁に思うようになりました。いつかまた、今度は私よりも随分前からマチュピチュへ行くことを夢見てきた母を連れて訪れたいと思っています。

皆さんにも、是非一生に一度は訪れて頂きたい場所です。言葉では表すことの出来ない感動がそこにはあります。



【北川秘書とボランティアの遠藤さん】

【マチュピチュ遺跡】

<ニックネーム Sugar さんからの特別寄稿>

私は今年の2月、友人と天空の城ラピュタのモデルと噂のマチュピチュとボリビアのウユニ塩湖へ行ってきました。5年前、その友人とオーストラリアで出会い話した「一生に一度行ってみたい場所は？」の答えが偶然同じで、いつか一緒に行こうと約束し、ようやく今回その夢を叶える事が出来ました。

そして、運が良い事に旅行前、野内セサル良郎さんの奥様と知り合いました。ツアーなどは利用せず、自分達で行く事を伝えると、とても親身になってお話をしてくれました。また旅行中も、時差の時間など関係なく、連絡を取り合いサポートして頂きました。

また、現地のクスコでは、野内セサル良郎さんのお父様にバス停までの案内や電車のチケット変更、ボリビア行きのバスの手配など本当にお世話になりました。クスコ到着が、天候悪化により大幅に遅延し、到着予定時刻を5時間以上過ぎていました。きっとお父様は、待つてはいないだろうと思っていました。自分だったら、見ず知らずの人を何時間も待つ事が出来るだろうか？と考えていたからです。

そして、空港外に出ると柵の周りには到着を待ちわびていた人でいっぱいでした。その中に、私の名前が書いてあるボードを持ったお父様が、出口から出てくる人を見回していました。何時間もお待たせした事をお詫びすると「こんな事は、よくある事だから」と優しい表情で答えてくれました。私が想定していた答えとは違い、その優しさに胸が熱くなりました。

また、ツアーでなく自分達で目指した、マチュピチュまでの道のりは、思っていた以上に遠く舗装されていない道や山を越える為、クネクネ道など車酔いもあり、辿り着くまで本当に大変でした。

しかし、その大変な出来事を一瞬にして吹き飛ばしてくれる世界がそこには広がっていました。ペルーレイルを降りると天候が悪く雨が降っていました。きっと良い写真は、撮れないだろうなと思いながらマチュピチュ行きのバスに乗り込みました。バスを降りると先程まで降っていた雨がピタリと止んでいました。入場口から進んでいくと眼下には、雲の合間から写真で見た事のある遺跡が少しずつ顔を出し、全貌が見えてきました。まさにそこには、天空の城が広がっていたのです。1時間後には、雨が降っていたとは嘘のような、晴れ間が広がり遺跡を照らしていました。その全貌が見えてくる一つ一つの過程、どれひとつをとっても素敵な被写体となりました。皆さんもマチュピチュへ訪れた際は、人や遺跡、食べ物など多くの事に触れて頂きたいです。標高が高いので、短時間だけでも日焼け止めは忘れずに塗って下さいね。私は、塗っていなかった手の甲だけ真っ赤に腫れあがってしまいました。

その後、マチュピチュから戻り、クスコからボリビアへ行く際、心配だからと夜行バスのチケット売り場まで一緒に着いてきてくれ、スペイン語が話せない私達の代わりに交渉してくれました。夜も遅いのに、最後まで見送りもして頂いて。初めてお会いした時から、なぜそこまで親切にしてくれるのか？ずっと不思議に思っていました。尋ねてみると「心は、日本人だからです。」とその言葉を聞いて心が震えました。日本で育った私が、同じような事が出来るかと言われたら、出来ないと感じたからです。

日本とは反対側に位置するペルーで、人を想う気持ち、真の日本人がいる事に驚き、とても嬉しかったです。自分は、まだまだ成長が足りないと気付かされました。お父様の笑顔と雰囲気が、私の祖母の姉にどこか似ていると感じました。彼女は、若くしてブラジルへ渡った人でした。1度だけ帰国した際、会った時の目が優しく、その表情がお父様と重なる物を感じ懐かしく温かい気持ちになりました。お父様との出会いは、自分を見つめる良い機会となりました。

今回の旅行を通して、私は日本で過ごしている時以上に、色々な方の心に触れる機会を持つ事が出来ました。この経験を自分の夢に繋げて活かしていきます。

私の夢は、ウェディングプランナーとして幸せのお手伝いをする事です。結婚は、お二人だけではなく周りの方も幸せにします。その幸せな空間を一緒に作っていきたいです。ぜひ、お手伝いをさせてください。

最後になりましたが、野内セサル良郎さん御家族の方、旅行に際してサポートして頂き本当にありがとうございました。この場を借りて、もう一度御礼申し上げます。



【マチュピチュ遺跡と Sugar さん】



【会長の父セサルさん、Sugarさんと友人】

【Actividades 活動報告】

＜四日市大学にて講演会開催＞

2018年1月17日（水）三重県四日市市にある、四日市大学で当協会会長が講演会を行い、学生ら20人が参加しました。今回の講演テーマは、「成功への一歩～ペルーから日本へ～」。会長自身が16歳の時に来日し、日本で歩んだ人生を振り返り紹介しました。会長は「学生時代に諦めないで、自分なりに頑張った事で、今がある。祖父の思いを受け継いで、ペルーと日本の発展のために貢献したい」と語り、学生に向けて「どんな状況でも諦めずに乗り越えた積み重ねが夢の実現につながる」とエールを送りました。



【講演時の様子】

＜愛知県で開催された国際交流フェスタに出店＞

2018年3月4日（日）愛知県長久手市にて「国際交流フェスタ」が開催され、当協会はペルー雑貨・食品販売出店として参加しました。当日はトルコ雑貨や書道・着物着付け体験コーナーや韓国料理やベトナム料理の屋台など、様々な国の出店ブースで会場は大賑わいでした。ステージでは、様々な国の民族音楽や民族舞踊が披露され、来場者はとても楽しんでいる様子でした。



【当日の会場の様子と当協会ブースの様子】

＜在東京ペルー領事館での写真展示会 開会式に参加＞

2018年5月16日（水）在東京ペルー総領事館内で開催された展示会の開会式に、当協会会長と会長夫人、小木曾理事、北川秘書が参加しました。（展示会は終了しております。）

今回は、クスコ市出身の造形作家、カルロス・アポリナル・ウルトラド・ガルベス氏の絵画展覧会が、“Orígenes - Los Hijos del Sol”（「太陽の子どもたちの 起源」）と題して開催されました。

また、何と作家のカルロス・アポリナル・ウルトラド・ガルベス氏が会長のお父様の友人であることが分かり、会長の幼少期を知る人物でもあり、この偶然の再会に驚き二人は喜び合いました。

彼の作品は、色鮮やかで力強く神秘的な雰囲気もあり、素晴らしい絵画でした。



【左：会長が与吉氏の歴史を紹介する様子】

【右：在東京総領事や開会式参加者らとの記念撮影】

<野口英世記念館に講演会開催>

2018年5月21日(月)福島県会津若松市にある、野口英世記念館にて野口英世博士の命日祭が行われ、記念講演として、当協会会長が講師を務めました。講演では、ペルーに貢献した野口英世博士の話やペルーには野口英世学園という学校があり、現在も子供達に野口博士の歴史が語り継がれている話など、野内与吉氏の歴史と共に紹介しました。(詳細は「新聞記事・TV番組情報コーナー」の新聞記事をご覧ください。)



【講演会の様子】



【八子寿館長らと記念撮影】

<名古屋市にてクンビア&サルサ BBQ イベント開催>

2018年6月3日(日)、愛知県名古屋市にて当協会が「クンビア&サルサ BBQ」を主催し、在名古屋ペルー総領事ご夫妻と娘様や東海福島県人会の皆様や会員の皆様らもご参加頂き、ペルー料理のアンティークーチョ(ハツの串焼き)やポリョ・ア・ラ・ブラサ(鳥の丸焼き)、白いジャイアントとうもろこし等、ペルーの味を堪能して頂きました。

そしてBBQ後には、在名古屋ペルー総領事より、「日本マチュピチュ協会の活動を通じて、日本の皆様にペルーの魅力が伝わっている事を嬉しく思い、これをきっかけにペルーへも訪れて欲しい」とご挨拶を頂きました。その後、まだ日本には馴染みのない、音楽ジャンル「クンビア」や「サルサ」、ペルー伝統音楽の「フォルクローレ」の演奏が披露され、皆様楽しんで頂いている様子でした。



【BBQ 時の様子】



【コンサート時の様子】

<海外日系人大会 in HAWAII にてスピーチ発表>

2018年6月6日ハワイで開かれた、海外日系人協会主催の第59回海外日系人大会は、日本の近代移民の起源となったハワイへの移民（通称「元年者移民」）を祝うため開催されました。同大会の総合テーマは、「世界の日系レガシー（遺産）を未来の基礎に一ハワイ元年者150年を祝って」。

本大会へは、日本・ブラジル・米国・ペルー、地元ハワイなど15か国18地域から約300人が出席しました。開会式には、秋篠宮殿下ご夫妻もご出席され、挨拶では「多方面で活躍し、地域社会から多大な信頼を得ていることは誠に喜ばしく、心強いものを感じています」、「大会を通じて世界各地の日系社会と日本を結ぶ絆が一層深まることを心より祈念します」と述べられました。

その後、記念講演と基調講演が続き、「150周年の歩みと提言」の部にて、当協会会長やグアム日系人協会最高顧問ら、計4名が10分のスピーチを発表しました。

会長のスピーチは「祖先への想い～日系人としての生き方」と題され、日本語とスペイン語で発表されました。野内与吉氏の歴史から始まり、この歴史がきっかけとなり実現した、マチュピチュ村と大玉村との友好都市締結実現や、日本各地で開催した展示会の紹介や会長自身が日系人として歩んできた道を発表しました。

世界各国の皆様は「これらの歴史を語る場所を私に与えてください」と力強くアピールすると同時に、祖父の歴史を伝える事は使命であり、自身の活動を通じて、日系人に限らず多くの方々が勇気や夢を持つきっかけを与えたいという思いを発信すると、会場内は大きな拍手と歓声に包まれ、スタンディングオベーションが起きました。スピーチ発表後、日本から参加された方々や海外に定住している日本、フランス、アメリカ等多くの国の方々に「このような歴史があるなんて知らなかった。大変感動した。」、「あのマチュピチュにこんな素晴らしい歴史があるなんて。驚いた」、「あなたの祖先に対する想いに感動した」、「あなたのスピーチを聞いて涙が出た」と声をかけて頂きました。

大会フィナーレでは、ハワイ日系社会の方々による、ハワイ伝統舞踊や太鼓の演奏が披露されました。



【スピーチ時の様子と大会フィナーレのハワイ伝統舞踊披露の様子】

また、当日に開催された夜の記念レセプションにも秋篠宮殿下ご夫妻が出席され、参加した各国の人々と親しく懇談されるなか、会長も秋篠宮殿下と懇談しました。三笠宮殿下がマチュピチュ遺跡を訪問され、与吉氏の娘が花束を贈呈し、この事が日本の新聞記事となったことが、与吉氏が故郷へ帰郷するきっかけとなりました。会長は、三笠宮殿下へ祖父が帰郷することが出来たきっかけを与えてくださった事への御礼をしたいと発信したところ、知人の協力により秋篠宮殿下を通じて、2015年三笠宮殿下と面会し直接御礼を伝える機会に恵まれました。

そして、三笠宮殿下との面会が実現した事の御礼を、秋篠宮殿下に伝え、現在の活動を報告すると、秋篠宮殿下は2015年の三笠宮殿下への面会の事も覚えて下さっており、感謝の言葉を伝えると笑顔で対応して下さい握手を交わしました。その後、秋篠宮妃殿下とも懇談し、三笠宮殿下との面会時の御礼と活動を報告。秋篠宮妃殿下も上記の事を覚えて下さっており、笑顔で話しを聞いてくださった後に握手を交わしました。

7日には、元年者150周年実行委員会主催プログラムが開催され、開会式には秋篠宮殿下ご夫妻も出席され、英語で挨拶されました。その後、ハワイ伝統の踊りや音楽も披露され、ハワイ元年者の子孫らがステージで祖先について語り、講演会やシンポジウムが行われました。そして夜には、政府主催レセプションが開催され、秋篠宮殿下ご夫妻も出席される中、太鼓の演奏や沖縄の民族音楽も披露されました。

2日間を終え、会長は「世界でも移民への関心が高まっており、日系人の活躍も注目されていると感じた。これからは、私も日系人として日本のみならず、世界にも日本人移民 野内与吉の歴史を発信していきたいと思う。」と決意を新たにしました。来年はペルーへの日本人移民120周年という記念すべき年を迎えます。当協会も野内与吉資料館や他の資料館等と連携し、イベントを企画しておりますので、また来年皆様にお知らせさせていただきます。



【大会宣言の様子】



【政府主催レセプション記念撮影の様子】

<金城学院大学にて学生に向けて講義>

2018年6月15日（金）、名古屋市にある金城学院大学で「世界遺産マチュピチュに村を創った日本人・野内与吉氏とその生涯」と題した講義が行われ、当協会会長が講師を務めました。

野内与吉氏の歴史と日本人移民の歴史やペルーの経済状況などを紹介、学生は興味深く講義を聞き入っている様子で、質疑応答の時間には多くの学生から経済や産業、与吉氏について多くの質問が投げかけられていました。この講義に合わせて開催した野内与吉移動資料館の様子は「野内与吉資料館だより」のコーナーをご覧ください。



【講義中の様子】

<大分県にて国際シンポジウムが開催されました>

2018年6月19日（火）と20日（水）大分県にて、放送大学主催の国際シンポジウムが開催され、当協会会長が野内与吉氏の歴史についての講演を行いました。両日共に、東京大学名誉教授の大貫良夫様も講演を行い、放送大学 特任教授稲村哲也様と共に古代アンデス文明の魅力を貴重な写真と共に紹介されました。講演後には、ペルー民族音楽演奏も行われ、神秘的な音色に観客はアンデスの風に包まれたようにリラックスした表情で聞き入っていました。会場では、ペルー雑貨も販売され、多くのお客様で賑わいました。



【左：講演時や演奏会の様子】
【右：売店の様子と皆様との記念撮影】

<いわき市にてモーニングセミナー講師として講演>

2018年6月23日（土）福島県いわき市にて、いわき市倫理法人会のモーニングセミナーが行われ、「マチュピチュ村を創った日本人 野内与吉の生涯」と題して、当協会会長が講師を務めました。

与吉氏の歴史から始まり、会長自身の人生や、「先祖のおかげで今の自分の人生がある事に感謝している」と語り、講演後には会長のケーナの演奏も行われ、皆様はどこか懐かしい音色だと喜んで頂いた様子でした。

また、講演を聞いて頂いた方の中には、「与吉氏の歴史を初めて知り、感動して涙が出ました」と感激して下さった方や「福島県出身という事をとても嬉しく思う」、「マチュピチュへ旅行に行ってみたくと思いました」等、多数の感想が寄せて頂きました。



【いわき市倫理法人会会長と】

【いわき市倫理法人会メンバーの皆様と】

【Noticias del Distrito de MACHUPICCHU マチュピチュ村ニュース】

このコーナーではマチュピチュ区役所のニュースを一部翻訳し、読みやすく編集したものを載せていきます。

<母の日イベント（投稿：2018年5月16日）>

Emotiva fue la alegría que mostraban a través de los abrazos y sonrisas las mamás de diversas comunidades, así como de Machupicchu pueblo al ser homenajeadas por el Gobierno Municipal de Machupicchu liderado por el Alcalde David Gayoso García, al celebrar el Día de la Madre. Estos son momentos que quedarán en la memoria de todo el pueblo así como de las autoridades que lo representan.

マチュピチュ政府から母の日の祝福を受けた時の、マチュピチュ村のお母さんたちと同様に、様々なコミュニティのお母さんたちの抱擁と笑顔が見せた喜びは感動的なものだった。この日の出来事は村全体、そして村を代表する当局の記憶に残るものとなった。



【マチュピチュ村のお母さん達とマチュピチュ村長、議員らとの記念撮影】

<環境問題活動（投稿：2018年5月26日）>

La Municipalidad Distrital de Machupicchu representada por el Alcalde David Gayoso García convocó a una reunión a la población en general para brindar información sobre los proyectos: "Construcción del Centro de Salud de Machupicchu de categoría 1-4" y "Mejoramiento y ampliación del servicio de agua potable y alcantarillado del centro poblado de Machupicchu". en esta reunión estuvieron presente funcionarios del Ministerio de Vivienda, Construcción y Saneamiento, además de los representantes oficiales del Programa nacional de Inversiones en Salud (Pronis).

デビッド・ガヨソ・ガルシア村長が代表を務めるマチュピチュ区は一般市民に、「カテゴリー1から4のマチュピチュ医療センター建設」と「マチュピチュの中心集落の飲料水及び下水道設備の改善と拡大」のプロジェクトに関する情報を提供するための集会を開いた。この集会には、国家医療投資プログラム(Pronis)の代表者に加え、住宅建設衛生省の職員らも参加した。



【マチュピチュ区役所内で行われた集会の様子】

<環境週間（投稿 2018 年 6 月 9 日）>

Sin Contaminación por plástico SEMANA AMBIENTAL EN MACHUPICCHU.

El Gobierno Municipal de Machupicchu liderado por el alcalde David Gayoso, a través de la Sub Gerencia de Gestión Ambiental realizó diferentes actividades de sensibilización en el marco de la “Semana Ambiental” del lunes 4 al jueves 7 de junio, con motivo del Día Mundial del Medio Ambiente que se celebró el día 5 de junio.

マチュピチュでの環境週間（プラスチックによる汚染を無くそう）

マチュピチュ政府は環境副管理局を介して、6月5日が世界環境の日であることから、6月4日（月）から7日（木）までの「環境週間」の間に環境への意識を高める様々な活動を実施した。



【左の子供が掲げているメッセージ：

（太陽の光と、人々による保護で、私たちの地球は木と花、虫たちで溢れる。さあ、始めよう！）】

【右の子供が掲げているメッセージ：（木を植える人は、他の人を愛する。）】



【左の男性が掲げているメッセージ：

（自然は私たちが大切にすれば無尽蔵だ。未来の世代のために自然を維持するのは私たちの責任である。）】

【右側の子供達もそれぞれ思い思いのメッセージを掲げて参加した。】

<公園の建設開始（投稿：2018年6月14日）>

MUNICIPALIDAD DE MACHUPICCHU INICIÓ LA CONSTRUCCIÓN DEL PARQUE INFANTIL LAS ORQUÍDEAS PARA NIÑOS Y ADOLESCENTES DEL DISTRITO.

En concurrida ceremonia el alcalde de la Municipalidad Distrital de Machupicchu David Gayoso, dio inicio a la ejecución del proyecto denominado, “Construcción del Parque Infantil Las Orquídeas, con el objetivo de brindar espacios adecuados para la diversión, distracción, recreación y esparcimiento de los niños e infantes de Machupicchu Pueblo.

Este es el segundo parque infantil que se construye durante la presente gestión edil.

マチュピチュは区の子どもたち、若者のための「ラン公園」の建設を開始。マチュピチュ村長は賑やかなセレモニーの場で「ラン公園の建設」と呼ばれるプロジェクトの実施を開始した。この公園は、マチュピチュ村の子どもたちの、娯楽、息抜き、レクリエーションなどを提供する目的で作られる。この公園は、現市長の下では2つ目に建設される公園である。



【セレモニーに参加する子供たちの様子】



【マチュピチュ村長を出迎える子供たちの様子】



【マチュピチュ村長ご夫妻のセレモニー参加の様子と村長ご夫妻、議員らとの記念写真】

マチュピチュ区役所はマチュピチュ村に住む人々の事を何よりも優先して考え、彼らのより良い生活や明るい未来を切り開くために毎日様々な課題と向き合いながら、マチュピチュ村村長をはじめとした議員や職員の皆様が現状の改善に尽力しています。しかしながら、日本と比べるとまだまだ課題は多く残っているのが現状です。当協会も引き続き、微力ながら寄付活動等を通してマチュピチュ村を支援して参ります。

【Información del Museo Peruano Oscar Yokichi Nouchi 野内与吉資料館だより】

<野内与吉資料館移転のお知らせ>

この度、野内与吉資料館は、大玉村の公共施設「大玉村農村環境改善センター 視聴覚室内」へ2018年3月12日より野内与吉資料館展示室として移転致しました。

～野内館長（当協会 会長）からのメッセージ～

皆様の御協力により、2017年5月「金泉閣」への祖父に関する資料館の開館が実現し、おかげ様でこれまでに約2,000名の皆様にお越し頂く事ができ、大変感謝しております。大玉村改善センターは大玉村民や子供たちが多く集う場所であり、この場所で祖父 野内与吉の歴史とペルーの文化を伝える事が出来るのを大変嬉しく思います。

なお、以前クラウドファンディングにて支援して頂いた備品や資料も活用し、この新たな場所が皆様に親しんでいただける空間となるように取り組んでまいります。

また、私は今年今後のさらなる活動への準備として、今年は福島と名古屋を行き来し名古屋にある、南山大学大学院にて祖父の歴史と日本人移民研究の修士論文の提出準備をする予定です。

引き続きペルーと日本の繋がりが増えるよう、日本の皆様に祖父の歴史とペルーの文化を伝える活動をして参りますので今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

野内与吉資料館 館長 野内セサル良郎

野内資料館展示室内では、野内与吉氏の歴史紹介パネルや与吉氏の手作り工具の展示をはじめ、日本人移民の歴史やペルーに貢献した日本人の紹介や、民族衣装の無料試着コーナーもございます。ペルーの民族衣装を着て、マチュピチュ遺跡写真前での記念撮影も可能ですので、ぜひ皆様のご来館お待ちしております！



【展示室内の様子】



【ペルー民族衣装無料試着コーナー】

■住所：福島県安達郡大玉村玉井字西庵 183
（大玉村農協環境改善センター2F 視聴覚室内）

■営業時間：9：30～16：30 ■入館料：無料

■休館日：土日祝日（イベント時は開館する場合がございます。）

なお、臨時休館や営業時間が異なる場合もございますので、ご了承ください。団体で見学をご希望の場合は、事前に電話かメールにてご予約をお願い致します。

<問い合わせ先> 一般社団法人 野内与吉資料館
TEL：0243-24-1939 FAX：0243-24-1939 Email：nouchi.yokichi.museum@gmail.com

<第1回 野内与吉移動資料館>

2018年2月18日(日)福島県相馬市にある相馬総合福祉センター はまなす館にて、NPO法人相馬国際交流の会が主催の「わくわくワールドフェスティバル」が開催されました。

このイベントに「野内与吉移動資料館」として出店し、与吉氏の歴史やペルーの文化を写真パネルで紹介すると共に、ペルー雑貨や食品販売を行いました。与吉氏の歴史を初めて知る方が多く、ペルーのマチュピチュと日本人の間にある物語に驚いた様子でした。

また、他にも多くの国がブースを出しており、様々な国の料理やステージでは踊りや歌が披露されるなど、賑やかなイベントとなり大盛況で終了しました。



【ステージ上でペルーをアピールしている様子】

【野内与吉資料館スタッフ西山とお客様】

<第2回野内与吉移動資料館>

2018年5月4日(金)～6日(日)愛知県名古屋市のテレビ塔南栄 久屋大通公園もちのき広場にて、「ラテンアメリカフェスティバル」が開催されました。ステージでは、ブラジルやペルーなどラテンアメリカの音楽演奏が行われ、ペルー料理・ブラジル料理の屋台や様々な国の雑貨店も出店。外国の方向けに開催されているイベントに今回、野内与吉移動資料館として出店し、ペルーの文化と与吉氏の歴史をペルーの方をはじめ、来場者の外国の方に紹介しました。当ブース内では、マチュピチュ遺跡の写真や与吉氏の歴史紹介パネル、古代アンデス文明の土器も展示しました。来場者は8割が外国の方で、ペルーの方も当ブースを見て、マチュピチュ村を創った人が日本人である事を知らなかったという方が多く、興味深く展示を見ていました。これから、様々な場所で移動資料館として与吉氏の歴史などを伝える活動を増やしていきたいと思えます。



【イベントの様子とボランティア協力してくれた皆様との記念撮影】

<第3回野内与吉移動資料館>

愛知県名古屋市にある、金城学院大学にて2018年6月11日(月)～20日(水)まで、在名古屋ペルー総領事館と野内与吉資料館が主催の「南米ペルー写真展～野内与吉移動資料館～」が開催された。学生の皆様にペルーの魅力と歴史を知って欲しいという在名古屋ペルー総領事館からの希望で、マチュピチュ遺跡写真パネルや野内与吉氏の紹介写真パネルが展示されました。

期間中には多くの学生が訪れ、展示を見てマチュピチュ遺跡の魅力と日本人の歴史を知る、とてもいい機会となりました。



【展示会の様子】

【金城学院大学に通う、当協会ボランティアと記念撮影】

【Información de las publicaciones de medios メディア掲載情報】

このコーナーでは、活動が取り上げられた新聞記事やTV番組で放送された内容を一部紹介します。

<福島民報社掲載>

大玉 移転し新装オープン

初代マチュピチュ村長野内与吉資料館

大玉村出身でペルーの初代マチュピチュ村長を務めた故野内与吉氏の功績を伝える「野内与吉資料館」が、大玉村大山の温泉旅館から同村玉井の村農村環境改善センター視聴室に移転した。室内には、与吉氏が自作した工具などの遺品や七十年間の生涯を解説するパネルを中心に、大玉村とマチュピチュ村の友好都市協定締結式の写真、ペルーへの移住の歴史を紹介する資料などを展示している。与吉氏の孫で日本マチュピチュ協会長の野内セサル良郎さんが代表を務める一般社団法人野内与吉資料館が運営している。

資料館は昨年五月に温泉旅館「金泉閣」内にオープンした。新たな展示室は村役場の近くになる。良郎さんは「公共施設内のため無料で観覧できる。ぜひ足を運び、ペルーやマチュピチュ村とのつながりを感じてほしい」と話している。

観覧無料。時間は午前九時半から午後四時半まで。原則として土・日曜日は休館。問い合わせは同展示室 電話0243324193 9へ。

野内与吉氏の功績を伝える遺品とともに、来訪を呼び掛ける孫の良郎さん

【Receta de Comida Peruana ペルー料理レシピ】

ペルー料理研究家 野内ジョセフィナ先生（当協会 会長の母）が教えるペルー料理のレシピを紹介するコーナーです。今回は、前菜としてよく登場するジャガイモを使用した有名な料理です。ピリッと辛く、クリーミーなソースがクセになる一品です♪

ジャガイモのチーズクリームソースがけ

PAPA A LA HUANCAINA （パパ・アラ・ワンカイナ）です。

<材料（2～3人前）>

- ・ジャガイモ 2～3個
- ★牛乳 100cc ★チーズ 75g
- ★クラッカー 20g ★ピーナッツ 50g
- ★塩 少々 ★水 少々
- ★アヒ・アマリリョ（黄色い唐辛子ペースト）適量
- ※インターネット通販サイト「キョウダイマーケット」などで手に入ります。



（飾り用）・オリーブの実 お好みで ・レタス お好みで ・ゆで卵 1個

<作り方>

- ①ジャガイモの皮をむかずに茹でる。飾り付け用のゆで卵も作る。
茹で上がったら、ジャガイモの皮をむき一口サイズに切る。
ゆで卵は輪切りにする。
- ②ミキサーにピーナッツと少し水を入れ、ペースト状にする。
- ③ミキサーに☆印の材料の②のピーナッツペーストを入れ、クリーム状にする。この時に味をみて塩を足し調整する。
- ④さらにレタスをひき、その上に茹でたジャガイモを置きその上に③のソースをかける。
- ⑤ソースの上にオリーブの実とゆで卵を飾り付けして完成。

この料理をレストランで食べたい方は、当協会おススメ提携レストランへお出かけください♪

ペルー料理&バル「アルド」
住所：東京都港区北青山 3-6-26 第5
SIビル B1F TEL：03-6427-7223

ペルー料理「インカ飯」
住所：名古屋市中区新栄 1丁目 12-30
ホワイトプラザ 1F TEL：052-212-6949



【Presentación de Festividades del Perú ペルーの行事紹介】

ペルーで6月といえば、毎年行われる「インティ・ライミ」だ。「インティ」とはケチュア語で「太陽」を意味し、インティ・ライミという名の儀式は、インカ帝国から伝わるもので、インティ(崇拝された神)を祈念する冬至に関わる儀式でもあり、「太陽の祭典」とも呼ばれる最も重要な儀式であった。

毎年サクサイワマンの広場で開催され、多彩な舞踊や行列が数日間続き、パチャママ神への感謝の供物として動物が捧げられ、収穫期が満ち足りたものとなることを願う。数千の市民が歌や踊りを披露しながら進み、最後には酒で祝杯をくみ交わし、歌い舞う。

最初のインティ・ライミは1412年に行われ、インカ皇帝による最後のインティ・ライミは1535年。それ以降はスペイン人征服者とカトリック教会によって禁止令が出された。

1944年、ファウスティノ・エスピノーザ・ナヴァロとケチュア族の俳優らが、インティ・ライミの歴史の再建を指揮した。再建初回は、主にインカ・ガルシラーソ・デ・ラ・ベーガの年代記に基づき、宗教的儀式のみにとどまっていた。1944年からインティ・ライミの劇場上演は、かつての開催地だったクスコ市にあるサクサイワマンで、毎年6月24日に行われ、内外からの観光客を何千人も集めている。インティ・ライミの祝祭は、現在もアンデス山脈のいたるところで行われている。音楽、華やかな衣装、有名なアヤ・ウマ(悪魔の頭)の仮面に溢れ、食べ物を分け合う。



(Wikipedia より一部引用)

【Informacion お知らせ】

<HIS様とのコラボマチュピチュツアー追加販売決定>

HIS様とのコラボペルー・マチュピチュツアー、2018年7月10日発はおかげ様で完売となり、嬉しい事に2018年10月9日発ツアーの追加販売も決定致しました。販売開始は店頭では7月6日から、ホームページでは販売開始となっております。ツアーの詳細はHISのHPや下記お問い合わせ先まで連絡お願い致します！ナスカの地上絵や首都のリマ観光、クスコ市観光に加え、世界遺産マチュピチュを2日間かけてゆっくり観光して頂き、マチュピチュ村では野内与吉の足跡を巡り、日本人移民の歴史について深く学べるツアーとなっております。申し込み人数に限りがございますので、ぜひこの機会に会長と共にペルーへ行きませんか？ぜひご検討ください！！



関東予約センター インプレッソ専門ダイヤル

0570-07-7667

固定電話からは3分8.5円〜でご利用いただけます。

ナビダイヤルが繋がらない場合は、お手数ですが、

03-6628-8130までお掛け直し下さい。

営業時間 [月～金] 8:00～23:00

[土] 9:00～21:00

[日・祝] 9:00～18:00

住所：東京都新宿区新宿6丁目24-16 新宿6丁目ビル3階

関東予約センター 総合旅行業務取扱管理者 内田 沙織

<大分県にて企画展開催！>

大分県にある大分県立歴史博物館にて2018年7月21日(土)～9月9日(日曜日)の期間、企画展「マチュピチュ・古代アンデス文明と日本人」が開催されます。

巨大な石造建築物や土器、黄金装飾品などを発達させた古代アンデス文明。その解明に尽力した日本人研究者とマチュピチュ村創設者の野内与吉に関して、BIZEN(びぜん)中南米美術館所蔵品を中心に紹介します。企画展示内には野内与吉移動資料館として、野内与吉の歴史紹介パネル展示や遺品(工具など)が展示されます。この機会にぜひ、大分県へご旅行されてはいかがでしょうか。皆様のご来場お待ちしております。

■会場■大分県立歴史博物館 〒872-0101 大分県宇佐市大字高森字京塚
代表Tel:0978-37-2100 Fax:0978-37-2101

- 開催期間■ 2018年7月21日(土)～9月9日(日)
- 休館日■ 月曜日(月曜日が祝日の場合は、祝日の翌日)
- 開館時間■ 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 入館料■ 大人 310円、高大生 150円(高校生は土曜日のみ無料)、中学生以下は無料。

【電車でご来館の場合】

- ・JR宇佐駅から車で10分
- ・JR柳ヶ浦駅から車で5分
- ・JR豊前長洲駅から車で5分

【車でご来館の場合】

- 東九州自動車道利用
- ・宇佐ICから12分・院内ICから15分



先月開催された国際シンポジウムのポスター下に企画展のお知らせが掲載されております。 →→→→→→→

The poster is for the 2018 Broadcast University International Symposium. The main title is 'マチュピチュの出会いとアンデス文明' (Machu Picchu's Meeting and Andean Civilization). It features a photograph of a person in traditional Andean attire. The event is organized by Broadcast University (放送大学) and the Oita Prefectural Museum of History (大分県立歴史博物館).
 Dates: June 19 (Tuesday) and June 20 (Wednesday), 2018.
 Venue: Oastar 21 (オアシスター21) for June 19, and Oita Prefectural Museum of History (大分県立歴史博物館) for June 20.
 Capacity: 100 people.
 Content: Symposium (シンポジウム) and Performance (演奏会).
 Admission: Free (無料).
 Organizers: Broadcast University and Oita Prefectural Museum of History.
 Contact: Tel. 0977-67-1191, Fax. 0977-67-1193.
 The poster also lists speakers: 大貫 良夫 (Ryoichi Oikawa), 野内セサル良郎 (Sesaru Yoshino), and 稲村 哲也 (Tetsuya Inamura).

＜日エクアドル外交関係樹立100周年記念事業 SANEのためのチャリティーライブのお知らせ＞

ペルー、コロンビア、ボリビアと共にアンデス共同体を構成する、ペルーにとってはいわば、兄弟のような国エクアドル。そのエクアドルと日本が来年、記念すべき外交関係樹立100周年を迎えます。

日エクアドル両国では既に100周年実行委員会が組織され、本年～来年の足掛け2年に渡りさまざまな記念事業が予定されています。そんな中、来る8月5日の午後、日エクアドル外交関係樹立100周年実行委員会構成メンバーである一般財団法人BIZEN 中南米美術館主催による日本国内初の100周年記念事業「SANEのためのチャリティーライブ」が、東京都港区六本木のフランシスカン・チャペルセンターにおいて開催されます（後援：駐日エクアドル大使館）。

エクアドル出土の古代動物＝ヘソイノシシの象形土偶をモチーフにしたBIZEN 中南米美術館所属のゆるキャラで、キャラクター界では『天使すぎる歌声』で人気のペッカリーが、同じく実行委員会構成メンバーで長年エクアドルの子どもたちの就学支援を続けるNPO SANEのために天使すぎる歌声を披露します。詳細は下記のチラシをご覧ください。エクアドルのみならず、中南米全域の魅力や現在暮らす岡山県及び備前市の魅力をも広く伝えるペッカリー（岡山県観光特使と備前市の観光大使を務めています）。そんなペッカリーと共に、日エクアドル外交関係樹立100周年を祝していただければ幸いです。ご参加ご希望の方は、会場で当日券をお求めください。

日エクアドル外交関係樹立100周年記念



SANEのためのチャリティーライブ

by Peccary & his Fantasy Jazz Band



Vo. ペッカリー



EarCandyJazzFactory
(Pf. 成田玲 Dr. 佐藤奏 Ba. 桜井奈穂子)



Sax. 野村亮太



ゲスト:みつけ





実力派ゴスペルグループ
Sprout Voices参加決定!

2017年 **8月5日(土)** 13:30開場
14:00～15:30

六本木フランシスカン・チャペルセンター
Roppongi Franciscan Chapel Center
〒106-0032 東京都港区六本木4-2-37
東京メトロ日比谷線・大江戸線「六本木駅」より徒歩2分
入場料 3,000円 (小学生1,000円、小学生未満無料)
チケットのご注文やお問い合わせは・・・
■ペッカリーモール(楽天市場)のチャリティーライブ・バナーから
■BIZEN中南米美術館フリーダイヤルへ
☎0120-346-287 / 平日10時～16時

主催  **BIZEN 中南米美術館**
後援  駐日エクアドル大使館



注意⇒会場の礼拝堂(2F)内は飲食厳禁です!1Fのカフェルームをご利用下さい(自販機はございません。お飲み物等は各自ご持参下さい)。

SANEとは・・・
1989年に設立された「エクアドルの子どもたちのための友人の会」で、エクアドルの子どもたちを教育を通して支援するNGO(国際協力民間団体)。活動の目的は、エクアドルの人々が自らの力でよりよい社会を創るため、教育を通して協力することです。活動地域はエクアドルの首都キトと山間部のカヤンベで、活動内容は奨学生事業及び教育環境改善のための学校を舞台とした事業です。現地での活動は、現地NGOのSOJAE(ソハエ)とパートナーシップを組み地域の人々と協力しておこなっています。

【Desde el PERÚ ペルーだより】

本コーナーでは、ペルー政府観光庁日本事務所より発行されている『PROM PERU ニュースレター』より抜粋した情報を掲載していきます。今回は Vol. 34 ~Vol. 36 の記事の中からご紹介致します。

<ペルー北部地域、2018 年に訪れるべき観光地に選ばれる！>

アメリカの旅行誌コンデナスト・トラベラーにおいて、ペルー北部地域が 2018 年に訪れるべき観光地の一つとして評価されました。雑誌編集者と様々な地域への旅行経験豊富な読者によって推薦され候補となった観光地の中には、南極大陸、韓国、ヨルダン、マルタなどが含まれています。

ご存知の通り、昨年、アンデス山脈の北部の国々はエルニーニョ現象の影響を大きく受けました。エルニーニョ現象は豪雨や地滑り、洪水などの被害をもたらしました。しかしながら現在は困難な状況を克服し、世界中から旅行者を迎えています。

トルヒーヨのチャンチャン遺跡、太陽のワカ・月のワカ、エル・ブルホ遺跡は素晴らしい観光名所と紹介されており、この地域の観光インフラは完璧に整っています。さらにこの記事では、レイメバンバの自然や神秘を強調しており、博物館に保存される 200 以上のチャチャポヤス文明のミイラ、そして世界で 3 番目に高いといわれているゴクタの滝も紹介しています。近年、ペルー政府観光庁はこの潜在的な観光地をアピールする為のプロモーションに力を入れており、その結果、いくつかの観光素材は世界的に認知されました。例えば、クエラップ遺跡はウォール・ストリート・ジャーナル紙において「世界でもっとも訪れたい話題の観光地 2018」の一つに選定され、また、英国のナショナル・ジオグラフィック・トラベラー誌の読者が選ぶ「ファー&アウェイ 海外のベストアトラクション」も受賞しています。さらに、最近では英 BBC 放送のドキュメンタリー番組でも紹介されており、ますます注目を浴びています。



<クエラップ遺跡、ニューヨークタイムズ紙で 2018 年に訪れるべき 52 の場所に！>

クエラップ遺跡はアマゾン地域の最も人気の観光名所として、また今年に訪れるべき観光地のひとつとしてニューヨークタイムズに選出されました。プロモーション活動や直行便の就航、そしてケーブルカーにより遺跡へのアクセスが便利になったことで、過去数年の間、クエラップ遺跡は観光地として高い評判を得ています。遺跡にはいくつかの建造物があり、その周りを巨大な石壁が囲みチャチャポヤス文化を訪ねる人々を驚かせています。

研究者によると、11 世紀、チャチャポヤス文明が栄えた時代に建設が開始され、16 世紀中ごろに完成したとされています。この見事な壁と山頂の居住地には、行政、宗教、儀式などかつての住民の生活が現代のように組織化されていたことを示す跡が存在しています。そこには 550 以上もの建造物があり、そのうち 4 つは長方形、1 つは四角形で、その他のすべては円形となっており、クエラップ遺跡を象徴するものとなっています。

クエラップ遺跡へのアクセス：標高 2,335m に位置するチャチャポヤスからバスでティンゴ・ヌエボ村を目指します。その後、ケーブルカーで遺跡へ移動します。十分な飲料水、日焼け止め、サングラス、歩きやすい靴を用意することをお勧めします。



<カハマルカ、CNN の 2018 年に訪れたい 18 の場所に選出！>

CNN トラベルウェブサイトは、2018 年に訪れたい 18 の場所の一つとしてペルー北部のカハマルカを紹介しました。記事では、カハマルカの最も人気なリラクゼーション・スポットの一つとしてインカの温泉を紹介しています。CNN によると、カハマルカは世界中の観光客には未だ広まっていない場所だとしています。コロニ



アル建築、石畳の通り、かつての雰囲気のまま残る中央広場、アンデスの景色は一見の価値があります。2,700m を超える北の高地を目指す人々にもう一つお勧めなのが、この地域で行われる南米一賑やかなお祭りに参加することです。これはペルーで最も大騒ぎなる祭りであると紹介しています。

その他、バロック様式の教会、またインカ皇帝アタワルパが捕らわれた際に自分の腕を上げその壁に線を引き、その高さまで金銀を集める代わりに自分を開放するように交渉したと言われる「身代金の部屋」などの見どころや、美味しい乳製品を楽しめるのもカハマルカの魅力です。最後に、サンタ・アポロニアの丘に登り、石段の上に建つ神殿から市を一望するのは、旅行者にとって見逃すことができない体験になるとして紹介しています。

<チャンチャン遺跡、ユネスコ世界遺産に登録から 31 年>

チムー王国の首都として栄えたチャンチャン遺跡がユネスコ世界文化遺産に登録されてから 31 年が経ちました。31 周年記念の特別プロジェクトとしてチャンチャン遺跡では様々な催し物が行われました。

このプロジェクトの代表者マリア・エレナ・コルドバによれば、学校の訪問、パレード、清掃、クラフトワークショップ、絵画コンテストなど他にも様々なプログラムが開催されたとのこと。チャンチャン遺跡は、人間の創造的な建築の傑作であり、チムー王国の伝統文化の証として 1986 年 11 月 28 日にユネスコ世界文化遺産に登録されました。

これらの文化活動には近隣のトルヒーヨ、ワンチャコ、ラ・エスペランザの住民も参加しました。また「世界遺産の地で生きる誇りを祝おう」と題した写真展を開催し、6つのパネルを用いてチャンチャン遺跡の普遍的な価値と公共投資プロジェクトが紹介され、チャンチャン博物館ではチムー文化、考古学研究などをテーマとしたポートレイトが展示されました。チャンチャンは、15 世紀チムー王国の首都としてインカに征服されるまで繁栄しました。先コロンブス期の最も大きな市は、都市の自治区を形成する 9 つの市庁舎と宮殿に分けられ、厳しい政治が行われていたことが反映されています。



<レインボーマウンテンについて知っておくべきこと>

地球の温暖化に伴い地表の氷河が溶けたことによって姿を現し、世界的に知られるようになったユニークな山ヴィニクンカ（ペルーの古くからある言語、ケチュア語で7色の山。以下、レインボーマウンテン）は、アンデスのクスコ地域の観光地として、近年、ますます人気が高くなっています。レインボーマウンテンは、大自然を旅することを愛している人々にとって革新的な選択肢です。この色彩豊かな山は標高 5,000m を超えますが、息を呑むような景色の中をハイキングしながらアクセスすることが出来ます。



その 7 色の素晴らしい色合いは、何百万年もの間、沈積した岩石によって作り出されました。この自然の傑作に到達するのは難しくありませんが、事前の計画、健康的な身体が必要とされます。ツアーはクスコの街から出発し、アンダウアイリリヤス、キキハナ、チェカクペの町を通り過ぎて、まるでインカ時代の絵のようであると言われていたピトゥマルカへ向かう途中の道が出発点です。そこから、約 3 時間のハイキングが始まります。入場料として外国人は 10 ソル、(約 350 円)かかります。長いトレッキングに不安な人は馬も利用できます。ゆっくりと進みますので乗馬をしたことの無い、初めての方でも気軽に乗ることができますが、急な坂や最後の山道は馬で行くことは許されていません。降りて進んで行く場所が何か所かあります。乗馬でも徒歩でも、氷河やいくつかのラグーンを含む美しい景観、リヤマ、アルパカ、ヒツジを牧畜している様子、キツネ、シカ、コンドルなどの野生動物を楽しむことができます。そして、頂上からは、まるで鳥の視界からのような壮大な景色を眺めることが出来ます。

旅のヒントですが、出発前に 2 日ほどの高度順応をお勧めします。事前に遠距離のハイキングやトレッキングを経験しておくプラスです。荷物はできるだけ軽くしましょう。グリップ力の高いトレッキングシューズ、ウォーキングスティック、暖かい服装、日焼け止め、帽子、手袋、サングラス、医薬品、軽食、水分補給飲料、雨対策にカッパやポンチョを準備しましょう。ツアーによっては登山前に朝食、下山してから昼食を清潔なテントで楽しめるサービスもあります。テント付きの簡易トイレも準備され快適にレインボーマウンテンのハイキングを楽しめます。

<聖なる谷、観光客を引きつける魅力>

インカの聖なる谷 - クスコのピサックとオリヤンタイタンボの町の上に位置し、毎年、数千人の国内外の観光客が訪れます。その地理的な美しさとその 350 の考古学的な遺跡は、かつてのインカ帝国に思いを馳せる観光客を引きつけます。ナショナル・ジオグラフィック・トラベルの公式ツイッターでは「あなたがペルーに行くなら、クスコの聖なる谷を通り過ぎるのではなく、忘れられない旅とするために、聖なる谷にしばらく滞在するべき」と紹介しています。それでは、主な観光スポットをご紹介します。(画像はオリヤンタイタンボ)



■ピサック■ 聖なる谷の入り口と見なされるピサックは、手工芸品市場と印象的な考古学的遺跡で知られています。この町は、インカ時代の都市のひとつでした。オリヤンタイタンボ：ペルーだけではなく南アメリカで最も重要な考古学的遺跡の 1 つと考えられています。クスコ市の北東 97km に位置しています。

■ルンクラカイ■ インカトレイルの中央に位置する一種の砦です。円形の防御壁を備えた建築物であるという特徴を持っています。

■チンチェーロ■ クスコ市から 28km に位置し、17 世紀に建てられた印象的な植民地教会などの重要な考古学的遺跡があります。

■モライ■ クスコ市の北東 74km に位置するモライは、アンデス山脈で高い耐性品種を栽培するためにインカの農業研究所として使用されました。

■マラス■ その塩田で知られていますが、これはインカ以前の時代から使用され続けています。乾季には、地下から湧き出る塩水を蒸発させて塩を集めます。

■ユカイ■ 聖なる谷の中心に位置するゆかいは、インカ時代の農業生産の中心でした。また、インカ帝国の皇帝であるサイリ・トゥパックの宮殿跡もあります。

<クエラップ遺跡への観光客、2017 年は 103,000 人に>

昨年、約 10 万 3 千人の観光客がクエラップの遺跡を訪れ、2016 年の 2 倍となり、名実ともにペルーの人気の観光地のひとつとなりました。この遺跡は、ペルーの北部地域を訪れる人にとって必見の場所であり、象徴的な場所です。この遺跡はリマから北東に 767km、ペルー北部最大の遺跡でアマゾナス地域の標高 3,000m を超える石灰岩で出来た山の頂上にチャチャポヤス文化の時代に作られ、驚くべき巨大な外壁に囲まれたいくつかの建物から成っています。その外壁は約 600 メートルの全長があり、その壁の高さは 19m に及びます。研究者によると、その建設はチャチャポヤス文化が発生した 11 世紀に始まり、16 世紀半ばに終わったとされています。その印象的な外壁と複雑な建築は永続的な耐性があり、行政、宗教、儀式、組織的な生活が営まれたことを示しています。上部には 550 以上の建造物あり、それらのほとんどは丸いものですが、四つの長方形、一つの正四角形のものがあり、重要な意味を持つと考えられています。



<リマ最新レストラン情報 >

ペルーは、その類稀なる歴史、自然、文化により世界で最も有名な旅行先のひとつとして知られていますが、近年は美食の分野でも注目を浴びています。ペルー料理はラテンアメリカで最高の料理のひとつであるだけでなく、世界のベスト 10 レストランの中に 2 件が含まれている事実は、多文化性や多様性だけでなく、高品質であることを証明しています。6 年連続、ワールド・トラベル・アワード“世界で最も美食を楽しむ国 (World’s Leading Culinary Destination) 部門”で最優秀賞を受賞していることは偶然ではありません。特に首都リマでは、世界中でその素晴らしさを認められたレストランだけでなく、地元の住

民も足繁く通う専門店や伝統的な料理を提供するレストランに溢れています。その中でも注目のレストランを抜粋して紹介させていただきます。

■セントラル (Central) ■

シェフのヴィルジリオ・マルティネス氏はペルー料理界きっての大スターです。このセントラルはラテンアメリカでは第2位のレストラン、世界では第5位のレストランとして評価されています。マルティネス氏の哲学は、ペルーの海岸地域、山岳地域、熱帯雨林地域それぞれのコミュニティとスペインに統括される以前のペルーの文化を大切にすることで、ペルー近海で獲れた魚介類から標高 3,500m で収穫された農作物を融合して提供します。



■まいど (Maido) ■

ラテンアメリカでは第1位の「まいど」は現地ではニッケイ料理として知られています。レストランはミラフローレスに位置し、オーナーシェフ、ミツハル・ツムラ氏によって素晴らしい料理が提供されています。ペルーの風味を日本料理の伝統である細部への心遣いで昇華した料理はペルーの秘宝とも例えられています。



<マチュピチュ、世界で1番インスタ映えする観光地のひとつに>

「オン・ザ・ゴー・ツアー」が発行する最新の「ザ・ワンダース・オブ・ザ・ワールド(The Wonders of the World)」レポートによるとペルーのマチュピチュ遺跡がインスタ映えする観光名所のひとつとして選ばれました。「オン・ザ・ゴー・ツアー」はインスタグラムでの人気観光地を紹介する旅行会社で、同社によると、マチュピチュ遺跡は世界で最も撮影された必見の観光地にランクインしているとのこと。このレポートはインスタグラム上の「ハッシュタグ」の数を分析して作成されました。



<ペルー、アドベンチャー・トラベルの目的地としても国際的に認知>

デジタルメディア企業グローバルデータは、ペルーが世界で最も優れたアドベンチャー・トラベルの目的地のひとつとして国際的に認知されていると伝えました。グローバル・アドベンチャー・ツーリズムのレポートでは、サーフィン発祥の地とも言われるペルー北部を古典的なサーフィンの目的地に挙げ、世界中の観光客を誘致するのに最高のビーチであると述べています。一方、ペルーのサイクリングは、ロードサイクリングとマウンテンバイクの2つの選択肢があり、様々な地形を有するペルーにおいて最適なアクティビティであると報じています。このレポートによると、世界中のほとんどのアドベンチャー・トラベラーは平均年齢 32~35 歳の男性であり、全体のうち、単独で旅行する人は 17%で残りは通常グループで行動するとの事です。さらに、デジタルメディアの進化により、旅行者が現地のツアー運営者に直接コンタクトできることを指摘しました。この点に関して、世界観光機関 (UNWTO) が運営する米国のアドベンチャー・トラベル市場について調査したところ、北米の冒険観光客の 70%以上が旅行計画を独自に計画しています。最後に、アドベンチャー・トラベラーは、ツアーオペレーター、ガイド、インストラクターなどの専門家や訓練を受けた人々が提供するサービスを好み、彼らの旅行が本物でエキサイティングな体験を構成している限り、限られた観光インフラを受け入れる意欲があると結んでいます。



(発行元)

PROMPERU ペルー政府観光庁日本事務所
(アビアレップス株式会社内)

非営利団体 日本マチュピチュ協会
Japan Machu Picchu Association

〒453-0828

愛知県名古屋市中村区中村本町 3-21 3F

Tel:052-482-8887/Fax:052-482-8887

E-mail:japan.machupicchu@gmail.com

Web : <http://japanmachupicchu.wix.com/peru>